


# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の I F 記載要領 2008 に準拠して作成

経皮吸収型鎮痛消炎剤

## 日本薬局方 フェルビナクパップ フェルビナクパップ 70mg 「東光」 フェルビナクパップ 140mg 「東光」 FELBINAC

剤形	貼付剤（パップ剤）
製剤の規制区分	なし
規格・含量	フェルビナクパップ 70mg 「東光」： 1 枚 10cm×14cm（膏体 14g）中フェルビナク 70mg 含有 フェルビナクパップ 140mg 「東光」： 1 枚 14cm×20cm（膏体 28g）中フェルビナク 140mg 含有
一般名	和名：フェルビナク 洋名：Felbinac
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造販売承認年月日：（販売名変更による） フェルビナクパップ 70mg 「東光」：2014 年 7 月 28 日 フェルビナクパップ 140mg 「東光」：2014 年 7 月 28 日 薬価基準収載年月日：（販売名変更による） フェルビナクパップ 70mg 「東光」：2014 年 12 月 11 日 フェルビナクパップ 140mg 「東光」：2014 年 12 月 11 日 発売年月： フェルビナクパップ 70mg 「東光」：1999 年 7 月 フェルビナクパップ 140mg 「東光」：2010 年 5 月
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：東光薬品工業株式会社 販売元：日本ジェネリック株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日本ジェネリック株式会社 お客様相談室  ：0120-893-170 FAX 番号：0120-893-172 医療関係者向けホームページ <a href="http://www.nihon-generic.co.jp/medical/index.html">http://www.nihon-generic.co.jp/medical/index.html</a>

本 I F は 2021 年 5 月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認下さい。

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

昭和 63 年日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びに I F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において I F 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな I F 記載要領が策定された。

## 2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された I F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

### [ I F の様式 ]

- ①規格は A 4 判、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

### [ I F の作成 ]

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「I F 記載要領 2008」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

## 【I Fの発行】

- ①「I F記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「I F記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果、又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

### 3. I Fの利用にあたって

「I F記載要領 2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、P D Fファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での I T環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の I Fについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I Fの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I Fの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I Fが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービスにより薬剤師等自らが整備するとともに、I Fの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分注意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

I Fを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I Fは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I Fがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008年9月)

---

## 目 次

---

I. 概要に関する項目	
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1
II. 名称に関する項目	
1. 販売名	1
2. 一般名	1
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）	2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2
7. CAS 登録番号	2
III. 有効成分に関する項目	
1. 物理化学的性質	2
2. 有効成分の各種条件下における安定性	2
3. 有効成分の確認試験法	2
4. 有効成分の定量法	3
IV. 製剤に関する項目	
1. 剤形	3
2. 製剤の組成	3
3. 用時溶解して使用する製剤の調製法	4
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4
5. 製剤の各種条件下における安定性	4
6. 溶解後の安定性	4
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	4
8. 溶出性	4
9. 生物学的試験法	4
10. 製剤中の有効成分の確認試験法	4
11. 製剤中の有効成分の定量法	4
12. 力価	4
13. 混入する可能性のある夾雑物	4
14. 治療上注意が必要な容器に関する情報	4
15. 刺激性	5
16. その他	5

V. 治療に関する項目	
1. 効能又は効果	5
2. 用法及び用量	5
3. 臨床成績	5
VI. 薬効薬理に関する項目	
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	5
2. 薬理作用	5
VII. 薬物動態に関する項目	
1. 血中濃度の推移・測定法	6
2. 薬物速度論的パラメータ	6
3. 吸収	6
4. 分布	6
5. 代謝	6
6. 排泄	7
7. 透析等による除去率	7
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
1. 警告内容とその理由	7
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	7
3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	7
4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	7
5. 慎重投与内容とその理由	7
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	7
7. 相互作用	8
8. 副作用	8
9. 高齢者への投与	8
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	8
11. 小児等への投与	8
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	8
13. 過量投与	8
14. 適用上の注意	8
15. その他の注意	9
16. その他	9
IX. 非臨床試験に関する項目	
1. 薬理試験	9
2. 毒性試験	9
X. 管理的事項に関する項目	
1. 規制区分	9
2. 有効期間又は使用期限	9

3. 貯法・保存条件	9
4. 薬剤取扱い上の注意点	9
5. 承認条件等	9
6. 包装	9
7. 容器の材質	9
8. 同一成分・同効薬	10
9. 国際誕生年月日	10
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	10
11. 薬価基準収載年月日	10
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	10
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	10
14. 再審査期間	10
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	10
16. 各種コード	10
17. 保険給付上の注意	11
X I. 文献	
1. 引用文献	11
2. その他の参考文献	11
X II. 参考資料	
1. 主な外国での発売状況	11
2. 海外における臨床支援情報	11
X III. 備考	
その他の関連資料	11

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

フェルビナクは抗炎症作用、鎮痛作用を有する非ステロイド性抗炎症薬であり、炎症性疾患や疼痛性疾患の治療薬として広く用いられている。本薬物はインドメタシンに匹敵する強い抗炎症作用及び鎮痛作用を有する反面、胃腸管障害、肝障害など全身性の副作用もしばしば認められている。近年、本薬物の全身性の副作用を軽減する目的で、炎症局所で抗炎症作用を発揮するパップ剤、軟膏剤等が開発され、経皮吸収型製剤として高い臨床的有用性が得られている。東光薬品工業株式会社は、粘着性の良いフェルビナク配合の経皮吸収型貼付剤「フェルビスパップ」を開発し、1998年12月に承認を取得し、上市した。なお「フェルビスパップ」は、2008年6月に医療事故防止のための名称変更を行い、「フェルビスパップ70mg」として上市した。さらに面積がその2倍の大判サイズ「フェルビスパップ140mg」を2010年1月に承認を取得、上市した。また、2014年12月に一般名を使った名称に変更し、『フェルビナクパップ70mg「東光」』並びに『フェルビナクパップ140mg「東光」』として上市した。

### 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- ・ 優れた基剤の粘着性。
- ・ 伸縮自在性の不織布の採用により、部位を選ばず患部にフィットする。
- ・ フェルビナクの強力な抗炎症作用、鎮痛作用が期待される。
- ・ 患部の範囲に合わせて普通サイズと大判サイズを選択できる。

## II. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

フェルビナクパップ70mg「東光」  
フェルビナクパップ140mg「東光」

#### (2) 洋名

FELBINAC PAP 70mg「TOKO」  
FELBINAC PAP 140mg「TOKO」

#### (3) 名称の由来

一般的名称+剤形+含量+屋号

### 2. 一般名

#### (1) 和名(命名法)

フェルビナク (JAN)

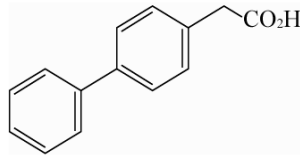
#### (2) 洋名(命名法)

Felbinac (JAN,INN)

#### (3) ステム

イブフェナク系抗炎症薬：-ac

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式：C<sub>14</sub>H<sub>12</sub>O<sub>2</sub> 分子量：212.24

5. 化学名（命名法）

Biphenyl-4-ylacetic acid (JAN)

6. 慣用名、別名、略号、  
記号番号

治験番号：TE-017

7. CAS 登録番号

5728-52-9

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

メタノール又はアセトンにやや溶けやすく、エタノール(95)又はジエチルエーテルにやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

溶 媒	本品 1g を溶かすのに必要な溶媒量
メタノール	10mL 以上 30mL 未満
アセトン	10mL 以上 30mL 未満
エタノール (95)	30mL 以上 100mL 未満
ジエチルエーテル	30mL 以上 100mL 未満
水	10000mL 以上

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、  
凝固点

融点：163～166℃

(5) 酸塩基解離定数

pka≒3.9

(6) 分配係数

1-オクタノール／水：21.4

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下に  
おける安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日局「フェルビナク」の確認試験による。

1) 紫外吸収スペクトル

スペクトルを参照スペクトルと比較する時、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。



#### 4. 有効成分の定量法

- 2) 赤外吸収スペクトル 臭化カリウム錠剤法  
スペクトルを参照スペクトルと比較する時、同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

0.1mol/L 水酸化ナトリウム液による中和滴定法

0.1mol/L 水酸化ナトリウム液 1mL=21.22mg  $C_{14}H_{12}O_2$

#### IV. 製剤に関する項目

##### 1. 剤形

###### (1) 投与経路

経皮

###### (2) 剤形の区別、規格及び性状

1) 区別：貼付剤

2) 規格：

フェルビナクパップ 70mg 「東光」

：1枚 10×14cm、膏体重量 14g

フェルビナクパップ 140mg 「東光」

：1枚 14×20cm、膏体重量 28g


3) 性状：白色～淡黄色の膏体を不織布に展延し、膏体表面をプラスチックフィルムで被覆した貼付剤であり、わずかに特異なおいを有する。

###### (3) 製剤の物性

粘着力試験（ボールタック法）：

清浄なスチールボール（No.4 以上）をころがすとき、スチールボールは粘着面で停止する。

###### (4) 識別コード

フェルビナクパップ 70mg 「東光」： 302

フェルビナクパップ 140mg 「東光」： 305

###### (5) pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等

該当資料なし

###### (6) 無菌の有無

無菌製剤ではない。

##### 2. 製剤の組成

###### (1) 有効成分（活性成分）の含量

フェルビナクパップ 70mg 「東光」：1枚（10×14cm、膏体 14g）中にフェルビナク 70mg を含有する。

フェルビナクパップ 140mg 「東光」：1枚（14×20cm、膏体 28g）中にフェルビナク 140mg を含有する。

###### (2) 添加物

ポリソルベート 80、D-ソルビトール、グリセリン、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸部分中和物、N-メチル-2-ピロリドン、ケイ酸アルミン酸 Mg、カオリン、酸化チタン

###### (3) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない。

3. 用時溶解して使用する 製剤の調製法	該当しない。								
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に 対する注意	該当しない。								
5. 製剤の各種条件下に おける安定性	各種条件下における安定性 <sup>1), 2)</sup>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="639 481 868 526">保存条件</th> <th data-bbox="868 481 1011 526">保存期間</th> <th data-bbox="1011 481 1182 526">保存形態</th> <th data-bbox="1182 481 1383 526">結 果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="639 526 868 575">40℃、75%RH</td> <td data-bbox="868 526 1011 575">6 箇月</td> <td data-bbox="1011 526 1182 575">最終包装</td> <td data-bbox="1182 526 1383 575">変化なし</td> </tr> </tbody> </table>	保存条件	保存期間	保存形態	結 果	40℃、75%RH	6 箇月	最終包装	変化なし
保存条件	保存期間	保存形態	結 果						
40℃、75%RH	6 箇月	最終包装	変化なし						
6. 溶解後の安定性	該当しない。								
7. 他剤との配合変化（物理 化学的变化）	該当資料なし								
8. 溶出性	該当資料なし								
9. 生物化学的試験法	該当しない。								
10. 製剤中の有効成分の確認 試験法	<p>1) 紫外可視吸光度測定法による。 波長 254nm 付近に吸収の極大を示す。</p> <p>2) フェルビナク中のカルボキシル基に基づく呈色反応で、<i>N,N'</i>-ジシクロヘキシルカルボジイミドを縮合剤としてヒドロキサム酸とし、過塩素酸第二鉄により、赤紫色～紫色を呈する。</p> <p>3) 薄層クロマトグラフ法による。 展開した薄層版に紫外線（主波長 254nm）を照射するとき及びホルマリン・硫酸試液を均等に噴霧し、105℃で加熱するとき、試料溶液及び標準溶液から得られたスポットの色調及び Rf 値は等しい。</p>								
11. 製剤中の有効成分の定量法	日局一般試験法液体クロマトグラフ（HPLC）法の内標準法による定量。								
12. カ 価	該当しない。								
13. 混入する可能性のある 夾雑物	該当資料なし								
14. 治療上注意が必要な容器 に関する情報	該当資料なし								

15. 刺激性

該当資料なし

16. その他

なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎

変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎（テニス肘等）、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛

2. 用法及び用量

1日2回患部に貼付する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

国内で総計46例について実施された一般臨床試験の概要は次の通りである。<sup>3)</sup>

疾患名	改善率	
	中等度改善以上	軽度改善以上
変形性膝関節症	54.2% (13/24)	83.3% (20/24)
肩関節周囲炎	83.3% (5/6)	83.3% (5/6)
腱・腱鞘炎	100% (1/1)	100% (1/1)
上腕骨上顆炎	50.0% (1/2)	100% (2/2)
筋肉痛	57.1% (4/7)	100% (7/7)
外傷後の腫脹・疼痛	83.3% (5/6)	100% (6/6)

副作用：46例中1例（2.2%）に軽度な湿疹が認められた。

(3) 臨床薬理試験：

該当資料なし

認容性試験

(4) 探索的試験：

該当資料なし

用量反応探索試験

(5) 検証的試験

該当資料なし

(6) 治療的試験

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

フェンブフェン：

フェルビナクを親化合物とするプロドラッグ

4-OH-フェルビナク：

フェルビナクの動物及びヒトにおける代謝物

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

作用部位：貼付部位で局所的に作用を発揮する。

作用機序：シクロオキシゲナーゼ活性阻害によるプロスタグランジンの生合成抑制作用、血管透過性亢進抑制

**(2) 薬効を裏付ける試験成績**

作用、白血球遊走阻止作用等が考えられている。  
カラゲニン足蹠浮腫（ラット）、紫外線紅斑（モルモット）、  
酵母による炎症性疼痛（ラット）、血管透過性亢進（ラット）  
に対する各種抑制試験において、本剤は無処置対照群及び基  
剤群に対し、統計学的な有意差をもって効果が認められた。

4)

**VII. 薬物動態に関する項目**

**1. 血中濃度の推移・測定法**

該当資料なし

- (1) 治療上有効な血中濃度
- (2) 最高血中濃度到達時間
- (3) 臨床試験で確認された  
血中濃度
- (4) 中毒域
- (5) 食事・併用薬の影響
- (6) 母集団解析により判明し  
た薬物体内動態変動要因

**2. 薬物速度論的パラメータ**

該当資料なし

- (1) コンパートメントモデル
- (2) 吸収速度定数
- (3) バイオアベイラビリティ
- (4) 消失速度定数
- (5) クリアランス
- (6) 分布容積
- (7) 血漿蛋白結合率

**3. 吸 収**

該当資料なし

**4. 分 布**

該当資料なし

- (1) 血液－脳関門通過性
- (2) 血液－胎盤関門移行性
- (3) 乳汁への移行性
- (4) 髄液への移行性
- (5) その他の組織への移行性

**5. 代 謝**

該当資料なし

- (1) 代謝部位及び代謝経路
- (2) 代謝に関与する酵素  
(CYP450 等) の分子種
- (3) 初回通過効果の有無及び  
その割合

<p>(4) 代謝物の活性の有無及び比率</p> <p>(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ</p>	
<p>6. 排泄</p> <p>(1) 排泄部位及び経路</p> <p>(2) 排泄率</p> <p>(3) 排泄速度</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>7. 透析等による除去率</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>VII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</p>	
<p>1. 警告内容とその理由</p>	<p>該当しない。</p>
<p>2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）</p>	<p><b>【禁忌】（次の患者には使用しないこと）</b></p> <p>(1) 本剤又は他のフェルビナク製剤に対して過敏症の既往歴のある患者</p> <p>(2) アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発）又はその既往歴のある患者 [喘息発作を誘発するおそれがある。]</p>
<p>3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由</p>	<p>該当しない。</p>
<p>4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由</p>	<p>該当しない。</p>
<p>5. 慎重投与内容とその理由</p>	<p>気管支喘息のある患者 [喘息発作を誘発するおそれがある。]</p>
<p>6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法</p>	<p>(1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく、対症療法であることに留意すること。</p> <p>(2) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に使用すること。</p> <p>(3) 慢性疾患（変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。また、患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。</p>

<p><b>7. 相互作用</b></p> <p>(1) 併用禁忌とその理由</p> <p>(2) 併用注意とその理由</p>	<p>該当しない。</p>		
<p><b>8. 副作用</b></p> <p>(1) 副作用の概要</p> <p>(2) 重大な副作用と初期症状</p> <p>(3) その他の副作用</p>	<p>本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない為、発現頻度は不明である。</p> <p>ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、血管浮腫、呼吸困難等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて使用を中止するなど適切な処置を行うこと。</p>		
<p>(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧</p> <p>(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度</p> <p>(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法</p>	<table border="1" data-bbox="639 757 1380 846"> <tr> <td data-bbox="639 757 810 846">皮膚</td> <td data-bbox="810 757 1380 846">皮膚炎（発疹、湿疹を含む）、そう痒、発赤、接触皮膚炎、刺激感、水疱</td> </tr> </table> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>「2. 禁忌内容とその理由」、「5. 慎重投与内容とその理由」、「6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法」及び「8. 副作用」の項参照</p>	皮膚	皮膚炎（発疹、湿疹を含む）、そう痒、発赤、接触皮膚炎、刺激感、水疱
皮膚	皮膚炎（発疹、湿疹を含む）、そう痒、発赤、接触皮膚炎、刺激感、水疱		
<p><b>9. 高齢者への投与</b></p>	<p>該当しない。</p>		
<p><b>10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与</b></p>	<p>妊婦又は妊娠している可能性のある婦人に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。[妊娠中の使用に関する安全性は確立していない。]</p> <p>シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。</p>		
<p><b>11. 小児等への投与</b></p>	<p>小児等に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない）。</p>		
<p><b>12. 臨床検査結果に及ぼす影響</b></p>	<p>該当資料なし</p>		
<p><b>13. 過量投与</b></p>	<p>該当資料なし</p>		
<p><b>14. 適用上の注意</b></p>	<p>(1) 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。</p>		

	(2) 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。
15. その他の注意	該当しない。
16. その他	なし
<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b>	
<b>1. 薬理試験</b>	
(1) 薬効薬理試験	「VI. 薬効薬理に関する項目」参照
(2) 副次的薬理試験	該当資料なし
(3) 安全性薬理試験	該当資料なし
(4) その他の薬理試験	該当資料なし
<b>2. 毒性試験</b>	
(1) 単回投与毒性試験	該当資料なし
(2) 反復投与毒性試験	
(3) 生殖発生毒性試験	
(4) その他の特殊毒性	
<b>X. 管理的事項に関する項目</b>	
<b>1. 規制区分</b>	
	製剤：なし 有効成分：劇薬
<b>2. 有効期間又は使用期限</b>	使用期限：3年（外箱に表示の使用期限内に使用すること。）
<b>3. 貯法・保存条件</b>	室温保存、遮光保存
<b>4. 薬剤取扱い上の注意点</b>	
(1) 薬局での取り扱いについて	該当しない。
(2) 薬剤交付時の注意 （患者等に留意すべき 必須事項等）	1) 使用期限内であっても、開封後はなるべく速やかに使用すること。 2) 開封後は袋のファスナーを閉じて保存すること。
<b>5. 承認条件等</b>	該当しない。
<b>6. 包装</b>	
	フェルビナクパップ 70mg 「東光」：350枚（7枚×50） フェルビナクパップ 140mg 「東光」：280枚（7枚×40）
<b>7. 容器の材質</b>	
	紙を主成分とするアルミラミネート 同一成分薬：

8. 同一成分・同効薬	<p>セルタッチパップ 70・140（帝國製薬=ファイザー）、 ナパゲルン軟膏 3%（ファイザー）</p> <p>同効薬： インドメタシン、ケトプロフェン、フルルビプロフェン</p> <p>該当しない。</p>
9. 国際誕生年月日	フェルビナクパップ 70mg「東光」：
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	<p>製造販売承認年月日：2014年7月28日 承認番号：22600AMX00893000</p> <p>フェルビナクパップ 140mg「東光」： 製造販売承認年月日：2014年7月28日 承認番号：22600AMX00896000</p>
11. 薬価基準収載年月日	<p>フェルビナクパップ 70mg「東光」：2014年12月12日 フェルビナクパップ 140mg「東光」：2014年12月12日</p> <p>該当しない。</p>
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない。
13. 再審査結果・再評価結果公表年月日及びその内容	該当しない。
14. 再審査期間	本剤は、投与期間に関する制限は定められていない。
15. 投与期間制限医薬品に関する情報	フェルビナクパップ 70mg「東光」：
16. 厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	<p>HOT（9桁）番号：106464304 厚生労働省薬価基準収載医薬品コード：2649731S1275 レセプト電算コード：620646403</p> <p>フェルビナクパップ 140mg「東光」： HOT（9桁）番号：119752502 厚生労働省薬価基準収載医薬品コード：2649731S3065 レセプト電算コード：621975202</p>
	なし



## 17. 保険給付上の注意

### X I. 文 献

#### 1. 引用文献

- 1) 東光薬品工業株式会社 社内資料：安定性試験（1997）
- 2) 東光薬品工業株式会社 社内資料：安定性試験（2009）
- 3) 東光薬品工業株式会社 社内資料：臨床試験（1997）
- 4) 東光薬品工業株式会社 社内資料：生物学的同等性試験（1997）

該当資料なし

#### 2. その他の参考文献

### X II. 参考資料

#### 1. 主な外国での発売状況

該当しない。

該当資料なし

#### 2. 海外における臨床支援情報

### X III. 備 考

#### その他の関連資料

該当資料なし







**日本ジェネリック株式会社**  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号